

# ◎二十一世紀への港湾

■片桐正彦

## 1 はじめに

「総合」という言葉を広辞苑で調べてみると、第一義として、「個々別々のものを一つに合わせまとめること」とある。これを港湾空間にあてはめて考えた場合、物流、生産、生活といった各機能が「個々別々」のものであって、それらがバランス良く配置されているのが「総合港湾」「総合的港湾空間」であるといえる。その場合、「一つに合わせまとめる」ところに意味があつて、単に「個々別々」のものを「寄せ集める」だけでは「総合」にならないわけであり、物流、生産、生活といった各機能が互いに連携しながら融合することが必要である。さらに、人の視点に立つて考えた場合、当然のことながら港湾空間とその他内陸地域を連続してとらえることから、まさに「人、海、まち」の「共生」関係の確立が必要となる。

以下では、「総合的港湾空間」を目指して施策体系をまとめた「二十一世紀への港湾」と、「共生」を一つのキーワードとし

て東京湾の超長期的なあり方をまとめた「二十一世紀の東京湾ビジョン」、さらにそれを踏まえて現在策定作業を進めている「東京湾港湾計画の基本構想」をご紹介します。今後の「総合港湾」に関する議論の一つの踏み台としたい。

## 2 「二十一世紀への港湾」

運輸省港湾局は昭和六十年四月に「二十一世紀への港湾」を策定し、さらにその後の国際的、国内的な社会状況の変化に対応するため、平成二年四月に「豊かなウォーターフロントをめざして―二十一世紀への港湾」プロジェクトをめざして「二十一世紀への港湾」フォーラム」を公表した。この施策の体系が図-1である。

この体系に沿って、以下に「二十一世紀への港湾」の概要を記す。

- ① 総合的な港湾空間の質の向上
- ② 使いやすく美しい港湾空間の形成
- ③ 使いやすい港湾空間の形成

港を利用する人々や船舶、車両等にとって安全で使いやすく、分かりやすい港湾空間をつくる。

### ④ 美しい港湾空間の形成

人と海、人と港がふれあうことのできる美しく楽しい港湾空間をつくる(図-2)。

### ⑤ 港湾空間における機能の充実

#### ① 高度な物流空間の形成

② 外資コンテナターミナルの整備

③ 外資コンテナ貨物の著しい伸びという状況を踏まえ、コンテナ船の大型化と貨物量の増加に対応したターミナルの整備に重点を置く(図-3)。

④ テクノスーパライナー対応ターミナルの整備

現在、運輸省が開発を進めているテクノスーパライナーは、速力約五〇ノットと高速であり、国内でのモーダルシフトへの貢献、国際物流のスピードアップの進展に役立つものと期待されている。

このため、テクノスーパライナーに対応したターミナルを整備する(図-4)。

図-2 人と地球にやさしい港湾空間の形成

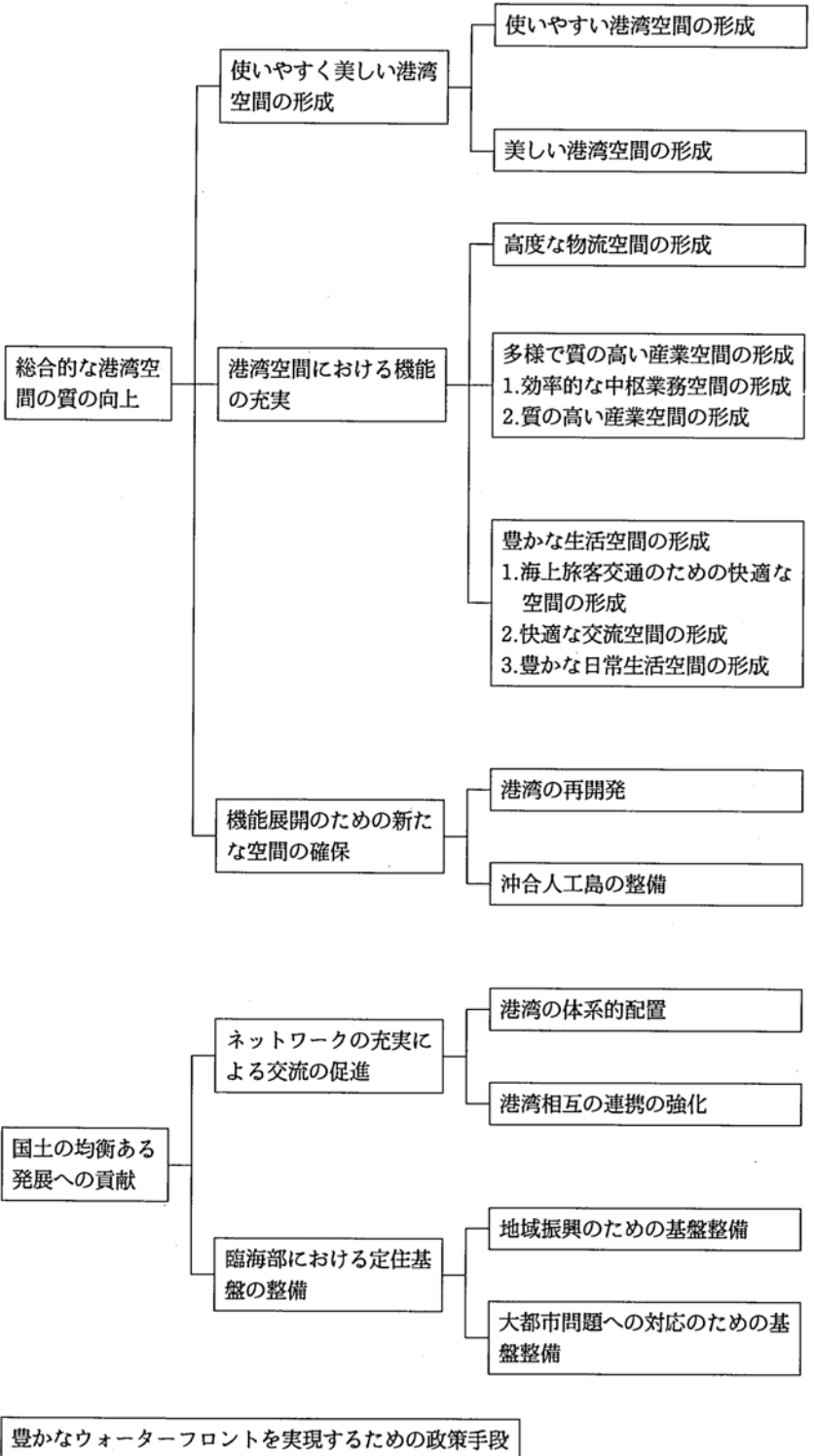


図-3 外資コンテナターミナルの配慮構想



- 1 はじめに
- 2 二十一世紀への港湾
- 3 二十一世紀の東京湾ビジョンについて
- 4 東京湾港湾計画の基本構想

図-1 豊かなウォーターフロント実現のための施策体系



③ 総合的な物流ターミナルの整備  
陸上・航空等其他の交通との連携を強化するため、主要な港湾に各種貨物を一体的に扱える総合的な物流ターミナルを整備する。

④ ポートフリーウェイの整備  
港湾・高速道路間等を結ぶポートフリーウェイを整備する。

(イ) 多様で質の高い産業空間の形成  
① 効率的な中核業務空間の形成  
質の高い物流サービスの提供や港湾空間の高度利用を促進するため、港湾中核業務空間を形成する。

② 質の高い産業空間の形成  
業務、研究及び生活環境の調和した魅力ある産業空間を研究する。  
また、地域産業の個性を活かした港湾の整備を推進する。

(ウ) 豊かな生活空間の形成  
① 海上旅客交通のための快適な空間の形成  
旅客はもちろん一般の人々も楽しめる海上旅客ターミナルを整備する。

② 快適な交通空間の形成  
国際交流や地域相互の交流の促進のための交流拠点を整備する。

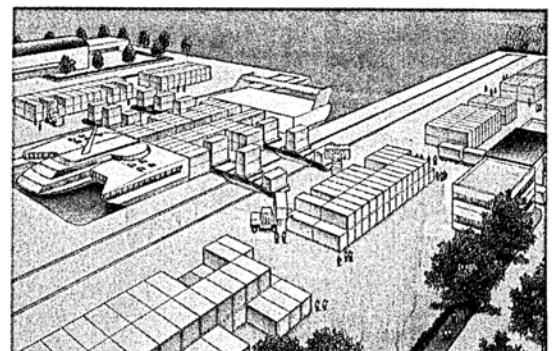
また、アクセスの良好な海洋性レクリエーション拠点を整備する。

③ 豊かな日常生活空間の形成  
地域に密着した物流、産業機能の充実を図るとともに、公共施設用の空間や利用者の安全に配慮したマリーナ、緑地等を形成する。  
港湾は震災時の避難や緊急物資輸送の拠点施設であるため、耐震性の強化を推進する。

地球温暖化に伴う海面上昇等、地球規模の環境変化がわが国に及ぼす影響とその対策について検討する。

都道府県の境界を越えた広い範囲の廃棄物

図-4 超高速船ターミナルの概略イメージ (水平式-両舷型)



を処理する広域処分場の整備を推進する（写真1）。

### ⑥ 港湾空間における機能の充実

#### ア 港湾の再開発

機能の低下した内陸地区や遊休化した水際線等は、再開発・再利用により活性化を促す。

#### イ 沖合人工島の整備

人工島は、海への多様な要請に対応が可能のため、今後積極的に整備する（図15）。

### ⑦ 国土の均衡ある発展への貢献

#### ア ネットワークの充実に伴う交流の促進

#### イ 港湾の体系的配置

三大湾（東京湾、伊勢湾、大阪湾）では、コンテナ対応の大型高効率ターミナルや、ポトフリーウェイの整備等を推進する。また、貨物取り扱い機能の湾外への展開を図る。

地方では、高速道路や鉄道との連携を取りやすい港湾に外資コンテナターミナルや内貿ユニットロードターミナルを配置する。

人口集積やクルージングの拠点等として高いポテンシャルを有する港湾中心に旅客ネットワークを形成する。また、プレジャーボートの増加等に対応するためマリーナを適正配置する。

#### イ 港湾相互の連携の強化

隣接する港湾間の陸上ネットワークの活用を進めながら、適切な機能分担のもとに港湾相互の連携を強化する。

#### ⑧ 臨海部における定住基盤の整備

#### ア 地域振興のための基盤整備

地方中枢都市の港湾では地域振興や国際化の拠点としてふさわしい物流、情報、アメニ

ティー関連施設を、地方の港湾では地域産業の育成に必要な基盤施設を整備する。

離島等の交通条件の不利な地域では、交通条件の改善を図る。

#### イ 大都市問題への対応のための基盤整備

大都市圏の港湾では、国際化にふさわしい中枢業務空間を形成し、良好な生活環境の住宅地の臨海部で確保する。

また、海上バスや臨港交通の整備と、港湾機能の湾外への分散により市街地交通への負荷の低減を図る。

以上が「二十一世紀への港湾」の概要であるが、港湾空間の持つ資質をより具体化し、また一つの空間としての「総合性」を追求したものであり、今後は時代の要請の変化を的確に把握し、新しい時代にふさわしい港湾整備を実施していくことが肝要であると考えられる。

## 3 二十一世紀の東京湾ビジョンについて

東京湾空間は、これまで物流・生産・漁業など多様な活動の展開の場としてわが国の発展に大きく貢献してきた。運輸省第二港湾建設局においては、東京湾空間の整合のとれた開発、利用及び保全の指針として、「東京湾港湾計画の基本構想」を過去三次にわたり策定してきた。現在の基本構想は昭和六十三年に概ね二〇〇〇年を目標年次としてとりまとめたものであるが、近年、各種物流関連施設の陳腐化、モーターシフトへの対応など物流をめぐる状況の変化への早急な対応が求められている。それに加えて、海洋性レクリエー

ション需要の増大やウォーターフロントのアーメニティ化、さらには、東京湾の水質などの環境改善や、増え続ける廃棄物などへの対応が大きな課題となっており、より長期的な見通しの下に、新たな基本構想を策定することが必要となってきた。

そこで、第二港湾建設局は、各界有識者による「東京湾の将来を考える懇談会」を平成三年四月に組織し、そのなかで、概ね三十年先である二〇二五年時点を目標とした、東京湾の将来ビジョンの検討をお願いした。同懇談会は以後平成六年一月まで七回にわたり開催され、広範にわたる貴重な意見交換がなされた。

以下に示すビジョンの概要は、この懇談会における種々の議論を、中間的にとりまとめたものである。なお、最終的にとりまとめた東京湾ビジョンは、懇談会の名で近々公表される予定である。

### ① 長期ビジョンの基本理念

二〇二五年を目標とする本ビジョンにおいては、東京湾空間について、従来のように物流・生産といった機能中心の捉え方から、様々な交流が開かれる場として、また、「生命・自然・空間」が一体となった共生系としての捉え方に重点を移すことが必要であるとの基本認識に立っている。

また、東京湾空間を、「基本的には、東京圏に住み、働き、そしてここを訪れる人々の快適で豊かな生活を実現するための海であり、空間であり、同時に日本を代表する情報・文化の発信地である」と位置づけている。

図-5 沖合人工島イメージ鳥瞰



写真-1 大阪湾フェニックスセンターの広域処理場

